

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

<p>団体名</p>	<p>てらこみーる実行委員会</p>
<p>取組の名称</p>	<p>てらこみーる</p>
<p>実施場所</p>	<p>シェアスペース「ビーボーン」</p>
<p>対象地域</p>	<p>川崎市中原区及び高津区周辺等</p>
<p>対象地域の 特色・課題</p>	<p>対象地域は、明らかな貧困家庭は多くないものの、近年の物価高騰により家計が苦しい生活を強いられている家庭や、いわゆる核家族家庭が多いことから、保護者が多忙で家庭の中で孤独を抱えている子どもたちが少なからず存在していたり、保護者等が職を持ち日々の暮らしに追われているために家庭外での交流が難しく家庭そのものが地域の中で孤立している状況があるものと思われる。</p>
<p>取組の趣旨・目的</p>	<p>本取組は、このような様々な形の孤立を解消する趣旨で、家庭の困難や保護者等の力量的限界により孤独を抱える子どもたちに対する無料の学習サポートに加えて、心をゆたかにする季節のメニューを取り入れた無料の美味しい食事を提供し、不定期開催による体験型ワークショップ等の能動的な活動の充実を図ること、寺子屋講師や調理のボランティア等のサポーターのみならず、「てらこやタイム」や「みーる（食事）タイム」に参加する参加者（大人を含む）全員が相互に主体となって、地域に根付いて家庭や地域の機能を補完することを目的としている。</p>
<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>「てらこみーる」は、2017（平成29）年2月19日より、これまでに全107回、第2日曜ないし第3日曜日に、川崎市中原区新城所在のコミュニティ・カフェ「メサ・グランデ」において、また、令和5年3月からは中原区宮内所在のシェアスペース「ビーボーン」において開催されている。</p>

	<p>「てらこみーる」とは、「寺子屋」と「ミール（食事）」を合わせた造語であって、調理の時間帯に並行して開催される「てらこやタイム」においては、宿題等を持参する子どもたちにボランティアが無料で学習のサポートをしたり、ワークショップを開催したりする。12時から開催される「みーるタイム」では、野菜ソムリエが考案したレシピに基づき、18歳以下の子どもに対してはすべて無料で、大人は1名につき500円で、季節に応じた美味しい食事を提供している。</p> <p>「てらこみーる」に参加する子どもたちは、思い思いに、学習や工作をしたり、ワークショップに参加したり、テーブルごとに「いただきます」をするなどして食事を楽しんでいる。なお、食事のみの参加も可能である</p> <p>実施スケジュール 1回/週・(月)</p> <p>活動日数 12日/年</p>		
<p>参加者の年代</p>	<p>0～80代</p>	<p>定員 (1回あたり)</p>	<p>なし</p>
<p>実施頻度</p>	<p>毎月1回 (原則第2日曜)</p>	<p>活動日数 (年間)</p>	<p>12日</p>
<p>スタッフ体制</p>	<p>運営3名 ボランティア毎回6～13名参加 (令和7年度実績)</p>		
<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<p>連携する団体等</p> <ul style="list-style-type: none"> ①NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ ②NPO法人かわさきこども食堂ネットワーク ③中原区こども食堂グループ「Aina」(アイナ) ④NPO法人子育て支えあいネットワーク満 (学童保育マオポポKids) ⑤宮内自治会 <p>手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①、②、③について寄付金、食材、寄付品等の情報交換、申請、受領 ④について同法人運営の学童保育「マオポポKids」と共 		

	<p>催関係のため、ボランティア参加や開催告知について協力を受けている。</p> <p>⑤宮内自治会の特別委員会である「歴史ガイド委員会」による地域の歴史ガイドのワークショップを毎年定期開催</p>
<p>取組実施により見込まれた効果</p>	<p>本取組は、単なる「子ども食堂」として子どもたちに対して無料の食事を提供するだけでなく、子どもたちが「てらこやタイム」等を通じてより多くのボランティアに接し、社会に多様な大人が存在し、様々な社会人としての姿があることを認識したり、地域の大人と接する居場所を提供した。</p> <p>また、子どもたちが友人や地域等の大人たちと過ごせる時間を、日常の生活に追われる平日ではなく、週末に設定したことにより、子どもたちあるいは子どもたちと一緒に参加する保護者等も普段とは違った余裕のある時間を過ごすことが可能となったものと思われる。</p> <p>調理の時間帯に並行して「てらこやタイム」を設けることにより、食事をするだけでなく、その「場所」にいることを楽しむ時間が生まれ、参加者である子どもたちや大人同士の距離が近くなり、家庭が孤立しがちな休日に地域での居場所を作るという効果があった。</p>

以上